

7月21日 逍遙



今日7月21日は、鹿児島を代表する戦国武将・島津義弘が、加治木館にて85歳で大往生した日です。昨年はこの義弘の没後四百年に当たったこともあり、県内各地で記念イベント等が開催されました。ここ黎明館でも、当館収蔵の関連資料等を数多く企画展示し、戦国時代という激動の時代における生き残りを賭けた知恵と戦略等についてご紹介させていただいたところです。

「やっぱり本物を直接見て良かった」と皆さん方に思っていただけのような、そんな黎明館で今後もあり続けたいと思っておりますが、なにせ「人との接触」や「施設の共同利用」などを通じて「感動や満足の共有空間を提供する」という従来のスタイルそのものが今やネックとなる「ウイズ コロナ」の新時代にいきなり突入してしまった感があり、逍遙館長的には正に「コロナ新時代における黎明館としての新たなコミュニケーション・スタイルとは？」という新たな問いかけに対する解を求めて、知恵と戦略等を模索していかなければ、というのが、今の切実な課題なのであります。